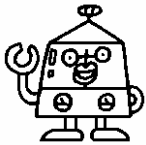


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の発芽と成長 / 理解シート

たねって、どんなものなの



動物の赤ちゃんやたまごなどと同じように、たねは、植物が子孫を残すための、赤ちゃんのようなものだよ。

たねは、植物の赤ちゃん

見上げるような大木や、大きな実をたくさんつけて葉を広げているヘチマも、初めは小さなたねだったものが、芽を出し、大きくなったものです。

たねは、植物の赤ちゃんのようなものです。たねから育った植物は、大きく育つと花をつけ、花の後に実がなり、たねができます。このたねが芽を出し、もとの植物がかけても子孫が残り、ぜつめつしない生き残っているのです。

たねはじょうぶな皮に守られ、中に栄養分をたくさんもっている

カキの実に入っているたねを割ってみると、たねの中に新しい芽になる葉やくきが、用意されているのがわかります。水にひたしてやわらかくしたインゲンマメの皮をむき、たてに割ると、中にやはり小さい葉やくきができています。

たねは、地面などに落ちて、水気やちょうどよい温度などにめぐりあうと、芽を出します。そのため、たいてい、芽の出る時期がくるまでくさらないように、じょうぶな皮につつまれています。また、芽が出て葉や根が育つまでの間に必要なエネルギーとして、たねの中には、栄養分がためてあります。コメや豆などの食料は、たねの栄養分を人間が利用しているのです。

たてに切ったたねのいろいろ

